

学校教育目標

自ら学ぶ、心豊かでたくましい児童生徒の育成

めざす児童生徒像

①と(他者)に優しい子 ④く考える子 ⑤なやかで元気な子

研究主題 学力向上を目指し、自ら学ぶことのできる児童生徒の育成
 ～主体的・対話的で深い学びを目指した授業の研究を通して～
 【仮説】対話的な学習方法を工夫し、ICTの活用をすることで、発想力、表現力を高め、自ら学ぶ姿勢と深い学びにつなげることができるであろう。

今年度の重点目標

自ら考え、表現することのできる生徒（発想力・表現力）の育成

授業改善

主体的・対話的な深い学習の構築

- ・ペアやグループで話し合う対話的な場面を取り入れた授業づくりをする。

表現させる場面の設定

- ・「書く」場面、「考える」場면을意図的に設定し、自分の考えをもつ習慣を身につけさせる。
- ・根拠をもって説明する、スライドを使って説明したりするなど、自分の考えを自分の言葉で話す場面を、一単元で一回以上設定する。
- ・ICT機器の活用。

目標、概念の可視化

- ・見通しをもって学習し、確実に身につけることのできる授業のために、「めあて」と「まとめ」を生徒に書かせ、定着を図る。

多様な考えに触れさせる

- ・他校との交流や他校の生徒の考え、レポート、作品等に触れる機会を持ち、多様な考えに触れさせる。

学習習慣の向上

家庭学習時間の確保
宿題としてのデジタル教材、機器の活用。
自主学習に向けて。
メディア視聴時間のコントロール
メディアアンケートの継続
学校保健委員会や懇談会等での保護者への説明。

職員研修

- ・小学校と連携して研究を進める。小学校は「読解力」に視点を置き研修をしている。
- ・教職員は研究授業を1回は行い、全職員参観の全体授業を小学校、中学校とも1回ずつ行う。
- ・ICT機器活用研修の実施。

課題	要因
<p>※全国、県の学力調査では例年、国、数、英ともに全体で、平均を上まわっているが、少人数のため項目ごとに個人偶然性による部分も大きい。そのため、校内のテスト、授業、指導者の実感を加え、課題を分析した。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・どの教科においても、思考力・判断力・表現力において課題が見られる。特に、表現力において、「書く力」「話す力」に課題がある。国語では、原稿用紙に2～4枚の作文が書けない生徒があり、書くことに抵抗感が見られる。英語では、「書くこと」において、県の学力調査では9割以上の正答率だが、校内のテストでは7割弱程度である。 ・アイデアが出ない、課題が進まない、対話的場面で違った意見が出にくいなど発想力に課題が見られる。 ・全学年とも家庭学習の時間が極端に少なく、宿題以外の取組ができていない。家庭でのメディア時間が長い生徒が多い。学校のある日でも1日のメディア時間が3時間の生徒が25%、2時間の生徒が75%見られた。(R3年度調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のため、多様な意見や考えに触れる機会がない。 ・人間関係が固定されており、友達の考えに影響されやすい。 ・多様な進路に触れる機会が少ない。 ・家庭学習では、何をしたいかわからない、必要な教材がわからない様子が見られる。 ・メディア使用について、家庭でのルールがあいまいである。

各教科の学力向上プラン

	課題の把握 (R)	授業改善・家庭学習 (P→D→A)	検証方法 (C→R)
国語	書くことに対する抵抗感がある。 長文(原稿用紙に2～4枚)を最後まで書けない生徒がいる。	100字程度の短作文を取り入れて、添削を受けたり、自分で推敲したりすることを繰り返させる。漢字練習や言葉の意味調べで語彙を増やさせる。	テスト(条件作文で無回答をなくす正答率70%)
社会	「間違いを恐れず主体的に発言すること」に苦手意識をもっている。学年があがるにつれて、その傾向が顕著である。	支持的風土をしっかりと形成し、意見を出しやすい雰囲気の中で、班やペアでの話し合い活動を毎時間2～3回意図的・計画的に授業に組み込み、活動回数を多く経験させる。	評価フォームでの肯定的意見80%(主体的な発言等) 授業観察
数学	学力調査の数値からは読み取れないが、期末テストではどの学年も思考力・判断力・表現力の数値が、知識・技能を下回り、課題が見られる。	思考力・判断力・表現力を問う問題を授業の中で多く取り扱う。また理解を深めるために、電子黒板や学習者用PCを使って説明させる場を多く設定する。	期末テスト、実力テストで、知識・技能と同等の正答率を目指す。
理科	思考力・判断力・表現力に課題がある生徒がいる。 計算や物理的、科学的 content に苦手意識を持っている。	思考力・判断力・表現力の形成のため、考える場や発表する場をつくる。 物理的、科学的 content に関する理解を高める問題を多く解かせる。家庭学習にAIドリルを活用する。	授業観察 期末テスト 実力テスト 50%以上の正答率を目指す。
英語	「書くこと」は学力調査では9割以上だが、校内のテストでは7割弱程度である。考え方で、柔軟性にやや欠ける。	授業内で、できるだけまとまった英文を書く機会を設け、定期テストでもそのような問題を取り入れる。他の生徒が書いた英文等を紹介し、電子黒板や学習者用PCを活用して多様な考え方に触れさせる。	授業観察 定期テスト 平均値70%が目標
音楽	技能においては、個別に能力の差がみられる。主体的に取り組む力は弱い。	音楽会など目標を持たせ、練習を増やすことで、能力の差を埋められるようにする。	テスト(技能)
美術	積極的な質問が少なく、こちらからの指示を待っている生徒がいる。全体的に発想力に欠ける。	数多くの参考作品を鑑賞させ、気づいたことを発表させる。	制作作品 アイディアスケッチ
保体	1学期の評価で、知識・技能と主体的に取り組む態度に対して、思考力・判断力・表現力の数値がやや低い。	技能面のスキルアップの時間を確保する。ゲームの場面では作戦を話し合い、ゲームに生かさせる。	学習カード 授業観察
技術・家庭	<技術分野> 製作課題などにいろんなアイデアを出すが、経験不足から思考力・判断力・表現力がやや低い。	先輩や他校生徒の作品を参考にしたり、インターネットで検索したりすることで経験不足を補充し、多様な考え方の中から最適解を導かせる。	作品、製図、ワークシート、レポート
	<家庭分野> 工夫が必要な場面で、いろいろな発想での意見が出にくいいため、思考力・判断力・表現力の数値が低い。	先輩のレポートやワークシートの活用、他校の生徒とICT端末を使ったの共有でいろいろな意見に触れる機会を持つ。 調理等は家庭で実践し報告させる。	作品、レポート ワークシート 対話的学習の記録

